

農家民泊では、わずかな時間での交流でも、学生との間には固い絆が生まれます。受入家庭にしか得られない感動や、やりがいがあるからこそ、何度も迎え入れているのです。

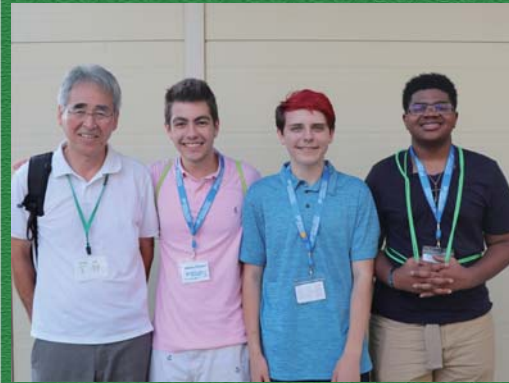
交流から生まれる絆は プライスレス



◀夕食の時間には、学生から宮部さんにプレゼントのサプライズ。

受入家庭に聞きました！

ここが第二の故郷になれば



▲宮部さんとアメリカの学生3人。

今回は、アメリカから3人の学生（14～15歳）を受け入れました。

海外からの学生を受け入れることは、言葉や文化、生活習慣の違いに戸惑うこともあります。それも新しい発見で面白く、日常生活のいい刺激になります。日本の文化や習慣を教えることは難しい半面、伝わった時はホッとするとともに、嬉しくもありました。

訪れた学生がここを第二の故郷のように感じて、また来てくれたり、連絡をもらったりすると、受け入れをして良かったと思いますね。

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会 宮部 忠男さん

取材の日には、以前宮部さんが受け入れた大学生が、就職内定の報告に来ていました。そこに居合わせたアメリカの学生と英語を交えての楽しい食卓。受け入れた後も「つながり」は消えることなくあり、さらに新たな交流が生まれ、広がっていました。

アメリカの学生から 感謝の言葉

日本語訳



私たちにとって、ここでの体験は初めてのことで、全てが新鮮で驚きでした。日本の家族の皆さんは心優しく、共に過ごせたことをとても嬉しく思います。

ここでの体験は、私たちの人生にとって、かけがえのないとても貴重なものとなりました。一生忘れません。

「アリガトウ」

受入家庭に なりませんか？

■毎日が特別な思い出

体験した学生、受入家庭の双方からは「心温まる交流を通して、貴重な体験ができ、人とのつながりを感じる事ができた。」と数多くの声が寄せられています。学生を受け入れるには、大変なこともあります。受入家庭の方も学生と生活を共にすることで普段とは違うやりがいを感じ、活力を生む原動力になるといいます。

町農業政策課では、教育の場になり、地域の活性化にも繋がる「農家民泊」の受入家庭の拡充を推進し、下石崎地区に限らず、町内の受入家庭を募集しています。

受入家庭として体験を希望される方、また農家民泊や農漁業等体験を見学したい方、内容について詳しく知りたい方は、町農業政策課までお問い合わせください。

【問合せ先】農業政策課
☎029 (240) 7118 (直通)

アメリカ

From

6月28日(水)から7月2日(日)アメリカから39人の学生が4泊5日の農家民泊体験に来ました。その体験の様を一部紹介！

3日目 (6月30日)
昼食



酒沼自然公園でのバーベキュー。焼きそばは初めて食べるという学生も、美味しいと絶賛！

14:00
折り紙体験



初めての折り紙で細かい作業に戸惑いながらも、鶴など3点の折り方を学びました。



17:00
浴衣着付け



初めて浴衣を着た学生たちはとっても嬉しそう。スマートフォンで仲間と写真を撮り合い、はしゃいでいました。

19:00
あんば祭りの見学



あんば祭りの様子を再現。お囃子を近くで見た学生はとても嬉しそう。一緒に踊り出す場面も。

4日目 (7月1日)
和太鼓体験



響きわたる和太鼓の音と圧巻のパフォーマンスに、学生からは大歓声。太鼓を叩く貴重な体験もできました。

5日目 (7月2日)
お別れセレモニー



民泊最終日。別れ際には「また来てね。」と涙を拭う皆さん。5日間のはかけがえのない思い出となりました。

1日目 (6月28日)
受入セレモニー



旧広浦小学校の体育館で、受入家庭と初対面。受入家庭のお母さんと握手をすると、ほっとした笑顔を見せました。

2日目 (6月29日)
高校交流



日本の高校生と英語を交えての交流。歌や書道などを通じて同世代の学生たちと笑顔いっぱいの時間を過ごしました。

14:30
和染め体験



色とりどりの泥の塗料で染めた手ぬぐいは、カラーや模様もオリジナル。

3日目 (6月30日)
ブルーベリー収穫体験



大きい実のブルーベリーを見つけるには、「アメリカのブルーベリーより実が大きい！」とパクッ！

10:00
組子細工・お箸作り



日本伝統工芸の組子細工で作るコースターには、少し苦戦。作ったコースターとマイ箸は良いお土産に。